

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 718 号 令和3年3月

## 福岡県“One Health”国際フォーラム2021を視聴して

— オンライン開催 —

会長理事 田中尚秋

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大がなかなか収まらない中、標記フォーラムが福岡県において開催されました。福岡県でも緊急事態宣言が発令されたため現地開催は中止となりましたが、令和3年1月30日（土）午後1時から開催された開会式、基調講演は、福岡国際会議場から生配信されました。また、特別講演や分科会での講演の様子は、令和3年1月23日（土）午後1時から1月30日（土）午後1時まで先行配信されたので、すべて視聴することができました。なお、すべてのプログラムは、令和3年1月30日（土）午後6時からホームページ上で一般公開されており、今のところいつでも視聴できますので、まだご覧になっていらっしゃらない方は、是非視聴していただきたいと思うものです。この催しは、COVID-19の感染拡大が全世界を脅かしている中、まさに時宜を得た開催であり、また、このフォーラム実行委員会の大会本部長は小川洋福岡県知事であり、知事自らが先頭に立ってワンヘルスの推進に取り組まれていることに深く感銘いたしました。服部誠太郎副知事のご挨拶の中で、ワンヘルスの理念の端緒となった「マンハッタン宣言」のこと、2016年11月に福岡県北九州市で開催された第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議でワンヘルスの理念を認識するところから実践へと進めていくという「福岡宣言」が世界に向けて発信されたこと、これを受けて、福岡県では様々なシンポジウムなどを開催され、このたび日本で初めてとなる「**福岡県ワンヘルス推進基本条例**」が本年1月5日に公布され、同日施行されたことなどが披露されました。福岡県の今後の方針等も示され、まさにワンヘルスの推進に力強く動き始めていかれる意気込みが感じられました。分科会でも多くの先生方がそれらのことを高く評価していらっしゃいましたが、全く同感です。ここまで進展してきたことに関し、（公社）日本医師会の横倉義武名誉会長、（公社）日本獣医師会の会長であり、アジア獣医師会連合（FAVA）の副会長でもある藏内勇夫

先生のご尽力、お二方のその先見性のある明晰なご対応等に改めて目が覚める思いがいたしました。

最初の基調講演で、世界保健機構（WHO）健康開発総合研究センター医官の茅野龍馬先生がWHOの観点から「世界における新型コロナウイルス感染症の現状と対策」というテーマで講演されました。最初に全世界の現況等から始まり、最後に新型コロナウイルス対策に関するWHOの3つのキーワード“Be SAFE（自分の身を守る）”“Be SMART（正確な情報をフォローする）”“Be KIND（人と人が支えあう）”が紹介され、「自分（たち）だけ大丈夫ならいい」というアプローチではパンデミックは収束しないという、我々はこれからどうすれば良いのかということについて重要なメッセージを発信されたことが強く印象に残りました。引き続き行われた横倉先生、藏内先生、お二方による基調講演、対談でワンヘルスへの取り組みの経緯等がよくわかり、“ワンヘルス”が耳慣れない一般の方にとっては大変参考になったのではないかと思います。

特別講演では、東京大学医科学研究所教授で感染症国際研究センター長でもある河岡義裕先生の「新型コロナウイルス：これまでにわかったこと」というご講演は、いろいろな知見を得る上での感染動物モデルを見出すことの重要性（ハムスターがCOVID-19の動物モデルとして有用であることがわかったこと）、マスク着用の有用性等、一般の方でもわかりやすいように科学的な実験、データに基づき詳しくお話しいただきました。ウイルス排出量のピークは発症前にあるということからも感染拡大を抑えるためには皆が平素からマスクを着用し、特に話し手がマスクを着用することの重要性等について説明いただき、より理解が深まったことと思われま。現在ご研究・開発中の不活化ワクチン、サブユニットワクチンは高い感染防御が期待できることがわかったこと、抗原検出キットはウイルス陽性検体を見過ごす可能性があるが、使いようによっては有用であること（ウイルス量の多いサンプルは確実に

陽性と判定)など抗原検出キットの活用提言等があり、COVID-19の制圧に向けて確実に前に進んでいることが感じられました。COVID-19に対してすでにワクチン接種が始まった今日において、今から治験を重ねていく必要のある日本発のワクチンは少し時機を失してしまったのかもしれませんが、他国に頼らず自国で生産できるワクチンがあることは非常に心強く有益なことであると思われまますので、1日も早い承認に向けて進んでいただくよう願わずにはおられません。このご講演に続いて、実際に患者さんの診療に当たられている国立国際医療研究センター 国際感染症センター長の犬曲貴夫先生が「新型コロナウイルス感染症に関する現状と課題」というテーマで講演されました。先生は、臨床医の立場から感染症の経過、治療、入院患者の臨床的特徴、予防措置、課題等のほか、明るいニュースとして、血液検査を用いた重症化予測がつかようになったこと等をご紹介いただきました。ただ、この予測も検査していただかないとわからないことなので、入院ベッドが空かず待機中に重症化・逝去してしまわれるケースなどの場合は適用できないことが難点と思われました。しかし、確実に医療は進歩していることを感じましたし、今後、さらに新しい治療法等についての知見が得られるものと期待しています。

『人と動物の共通感染症分科会』における新興・再興共通感染症に関するセッションでは、SARS、MERS、エボラ出血熱、デング熱、SFTS、狂犬病等が取り上げられ、それぞれ貴重な講演を聴くことができました。感染症に対するサーベイランスに関するセッションでは、当会が研修会等でも大変お世話になっている前山口大学共同獣医学部教授(現国立感染症研究所 獣医科学部長)の前田 健先生や国立環境研究所の五箇公一先生(生物・生態系環境研究センター 生態リスク評価・対策研究室長)も、それぞれ「野生動物を介したマダニ媒介感染症の拡大」、「新興感染症と生態系危機」について講演されました。このセッションの座長を務められた国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所の岡部貴美子先生からマダニの天敵としてオオヤドリカニムシが見つかったことの紹介があり、また五箇先生お得意の、そのCG画像には驚かされました。今後、天敵を利用したマダニ対策も進展してくるかもしれません。ただ、天敵を利用する方法は、過去日本においてはいくつもの失敗例があるので、慎重に見極めていただきたいと思います。

『ワンヘルスの取組み分科会』では、医療系・獣医療系大学における取組みをテーマに当会の学会運

営委員会委員で獣医学雑誌編集委員会委員長でもある度会雅久先生が「山口大学における医学・獣医学連携のワンヘルス研究拠点」ということで講演されました。山口大学研究拠点群形成プロジェクトの中で、医学・獣医学連携プロジェクトが「がんの増殖抑制の解明と革新的治療法の確立」と「感染症創薬研究センター(研究センターは自立化を目指しているがまだ実際に設置されているわけではない)」の2件を実施されていることの紹介がありました。ワンヘルス・アプローチによる創薬研究を推進することによって、感染症の克服に貢献することを目指しているということで、ゾウリムシとレジオネラ、カイコと野兔病菌に係る研究状況について紹介され、節足動物媒介性感染症の感染モデルとしてマウスに代わる実験動物としてカイコが注目されていること等の説明がありました。これは、自然宿主モデルを開発するために文部科学省が主導している国家プロジェクト「ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)」で、様々な生物の収集、保存、提供等が行われており、山口大学はゾウリムシについて担当されているということで、分野横断的連携の必要性を説かれていました。今後の展開に大いに期待したいと思います。

今回のフォーラムでは、その他、薬剤耐性(AMR)対策分科会、市民とワンヘルスなど多彩なプログラムが準備されていていずれも興味深く視聴いたしました。

講師の先生方は、いずれもご高名な先生方ばかりで全般にわたり貴重なお話が聴けたのは非常に幸いでした。今回、会場で直接のやり取りはできませんでしたが、このような形でライブ配信されたおかげで、ご講演の時間帯が重なり聴講できないということもなく、自分の都合のつく時間にすべて視聴できるというメリットもありました。これらを参考に今後のいろいろな大会等のあり方も変化していく予感がしています。

人と動物の健康、そして環境の健全性は一体のものであるというワンヘルスの考え方は、今後の新興感染症の問題、地球温暖化の問題等を考え対処していく上においてもまさに基本となるべきものであり、わが国だけでなく全世界的にも広がりを見せていることに感慨深いものがありました。我々も今後、より多くの方々にワンヘルスの理念についてさらに理解を深めていただけるよう啓発してまいりたいと考えています。皆様方のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 平生町のおすすめスポット紹介♪

玖珂支部 水田 妙子

(NOSAI 山口東部地区家畜診療所)

はじめましての方がほとんどかと思いますが、NOSAI山口東部地区家畜診療所に約2年前から勤務させて頂いている水田妙子と申します。今回、内容は何でもOKということで会報の執筆依頼を頂きまして、さて何を書かせて頂こうか、と迷いましたが、せっかくなので今暮らしている平生町の魅力アピールをさせて頂こうと思います。

私は大阪から家族で平生町へ移住してきて3年が経った頃なのですが、実際に育てながら暮らせば暮らすほど、この一見何にもないようで自然豊かで魅力がたくさんある平生町がとても気に入っており、もっとたくさんの方に平生町の魅力を知って頂きたいなと思い、勝手に平生のおすすめスポットを紹介させて頂きたいと思います。コロナ禍の続く今しばらくはなかなかあちこち遠出は難しいかと思いますが、ぜひお出かけの参考にして頂けたら嬉しいです。

平生町は山口県東南部の瀬戸内海に位置する人口1万人程の小さな町で、日照時間が長く気候も穏やかで、新鮮な海産物に採れたて野菜にと食べ物に不自由のない場所です。縄文時代から多くの人々が住んでいた瀬戸内地方随一の集落の遺跡や山口県最大のお墓もあり、大昔から人が住みやすい場所でもあったようです。その影響か現在も健康寿命がなんと山口県トップの町でもあります。近年は平生町とイタリヤ半島の地形が似ていることから(ちょっと無理やり感がありますが(^^;))「イタリアーノひらお」としてオリーブの植樹を中心に町おこしをはじめています。

平生町でまずおすすめしたいのは「大星山の展望台」です。標高400m程で風車のある山頂まで車で行くことができますが、瀬戸内海に浮かぶ島々(天気が良いと四国や九州の国東半島まで望めます)の

絶景はいつ行っても心洗われるようで圧巻です。特に夕陽の時間には海一面が黄金色になりとても美しくおすすめです(写真)。周辺にちょっとした遊具や広いグラウンドもあり子供連れでも思い切り遊べます。



大星山の展望台からの夕日

次におすすめなのは「シーサイドホテル上関の温泉」です。こちらは上関側にある海辺のホテルですが、温泉のみも大人500円で利用することができ、塩分濃度の高い塩泉でサラッとしたお湯です。ここもまた海と夕陽のきれいな景色を楽しむことができます。

また遊びのスポットとしては、「ダイドックさんのシーカヤックツアー」がおすすめです。世界中の海での遠征を成功させてきたガイドの原さんに案内して頂きながら楽しむシーカヤックのツアーは、初心者や子供連れでも楽しめるコースから本格的な冒険コースまであり、まるで大海原に浮かんでいるような感覚で非日常を味わうことができます。運が良ければスナメリにも出会う事が出来ます^^。

お食事処としては、「カントリーコテージさんのピザ」か「周月さんのつけめん」が何度行ってもまた行きたくなる美味しさでおすすめです。

最後に平生町で暮らしていて素敵だなと感じているのは、ご近所さんも皆さんお米か野菜を自給している方が多く、90歳以上の方も現役でとても元気なところですよ！ゆったりとした時間を感じるスポットが多い平生町へぜひ皆さんも遊びに来てください♪

## 令和2年度第2回支部長会議結果について

常務理事 福島 和彦

令和2年度第2回支部長会議を书面決議で開催しましたので、その概要と結果をお伝えします。支部長会議の議題内容は、次の3本柱です。

「1. 事業の進捗状況について」は、ご承知のとおり新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、多くの会議・講習会が中止・书面決議となった事を報告させて頂きました。

「2. 来年度事業計画について」は、事業計画案として、マイクロチップを活用した収益事業に向けた協議を開始する予定である事、獣医学術中国地区学会については、広島県が受持ちとなり令和3年10月16日(土)～17日(日)にグランヴィア広島(広島市南区松原町)にて開催予定であり、中国地区学会の抄録締切を考えると県学会も8月中下旬に開催にならざるを得ないと思われること、SFTS対策として、今年度第4回理事会にも諮りますが、関係検査機関にSFTS検査の依頼を行った場合、依頼書の写しを本会に提出して頂き、その後の検査結果を集積し、県内におけるSFTSの実態を会員の方々と共有することで、獣医療関係者を始め飼養者への注意喚起・飼育指導の一助を図りたいと思っております。

その他、本会総会については、開催場所・日時についても、第4回理事会であらかじめ承認を頂く予定としておりますが、令和3年6月13日(日)の予定とし、

開催場所を例年の県獣会館3階大研修室の天井裏のコンクリートの痛み(剥れ)が著しいことから、検討することとしていることを報告しました。また、各支部長へは、令和3年度会長表彰等の依頼も行っております。

「3. その他の連絡事項」として狂犬病集合注射に係る新規指定・解除者の報告、狂犬病予防啓発チラシ・ポスターの作成と配布報告等を行い、併せて、今後も引き続き県獣ホームページの活用をお願いしたところです。

12支部全てから、議案等の了承が得られましたが、ある支部からは、災害対策に関する研修開催の提案もありました。本来であれば、今年度、県防災危機管理課に依頼して各支部長、災害時動物救護対策委員を対象とした防災研修を夏季に予定しておりましたが、やむを得ず中止としたところです。今後も、獣医師会として一層の発災対策(例:会員の安否確認と被災状況の確認等々)の強化が必要と考えるところです。

今後は、令和3年3月11日(木)開催を予定しておりましたが第4回理事会に諮る事としておりましたが、理事会については、会報第717号(令和3年2月)でお知らせしました様に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、書面による「決議の省略」とすることとしておりますが、次年度の事業活動等についてしっかり説明を行うこととしております。



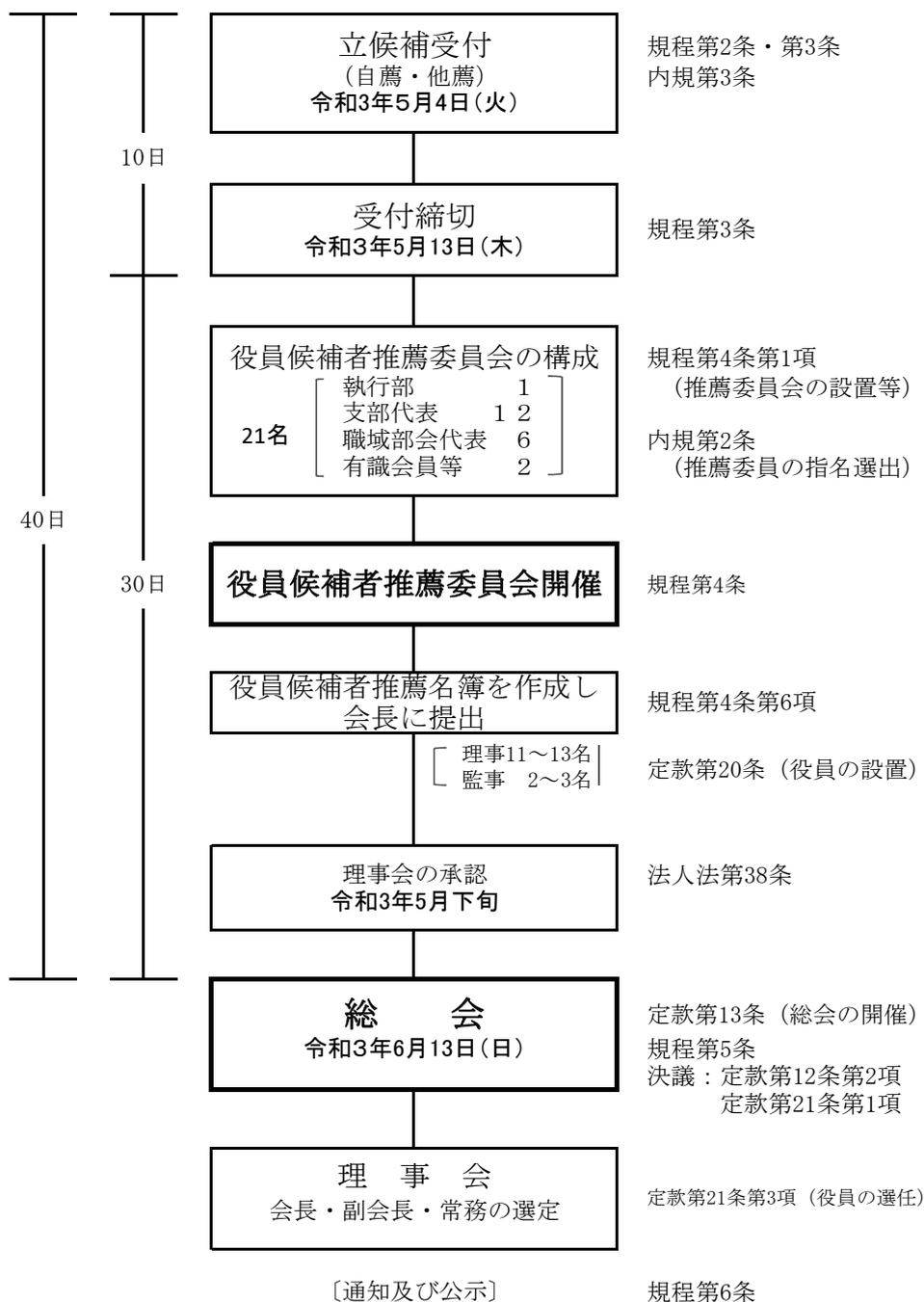
## 山口県獣医師会任期満了に伴う役員選任に係る候補者の受付

本年定時総会をもって現役員の任期(2年)が満了、これに伴う新たな役員選任に係る候補者の受付を定款第20条、役員候補者規程第2条・3条並びに同内規第3条の定めるところにより下記のとおり受理することとします。

記

- 1 受付期間 令和3年5月4日(火)～令和3年5月13日(木)
- 2 届出用紙 自薦の場合：役員立候補届(別表1-1)  
他薦の場合：役員候補者推薦届(別表1-2)
- 3 その他
  - 1) 届出用紙は各支部又は本会あて請求のこと
  - 2) 封書に「理事候補届」、「監事候補届」と朱書きで明記の上、本会あて送付のこと

### 役員選任のフロー



〔別表1-1〕

役員立候補届

この度の山口県獣医師会役員（理事・監事）に役員候補者推薦規程第2条に  
理事または監事に○をお付け下さい  
 より、立候補します。

記

- 1 氏名
- 2 住所
- 電話
- 3 生年月日
- 4 主要な経歴

公益社団法人 山口県獣医師会  
 会長 様

令和 年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印

〔別表1-2〕

公益社団法人 山口県獣医師会  
 会長 様

令和 年 月 日

推薦者氏名 \_\_\_\_\_

推薦者住所 \_\_\_\_\_

役員候補者推薦届

この度の山口県獣医師会役員（理事・監事）に下記の者を適任者と認め役員  
理事または監事に○をお付け下さい  
 候補者推薦規程第2条により、本人の承諾を得て推薦届を提出します。

記

- 1 候補者氏名
- 2 住所
- 電話
- 3 生年月日
- 4 主要な経歴

上記については立候補することを承諾します。

令和 年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印

# リレー随筆

## 自らの足で出会えた世界

山口支部 福田 泰史  
 (福田犬猫病院)

超が付くほど面倒臭がりの自分が、まさか『山登り』にはまるとは夢にも思わなかった。きっかけとなったのは8年前に家族と訪れた長野で、友人の勧めもあり気軽に臨んだ『木曾駒ヶ岳』登山だった。日本百名山の一つである木曾駒ヶ岳は非常にアクセスが良く、ロープウェイを使えば初心者でも日帰り登山を満喫できる中央アルプスを代表する山である。しかしながらジーンズ、スニーカーという軽装備と長年蓄積した運動不足で挑んだため、山頂ははるか遠く、あえなく途中撤退となった。登頂は叶わなかったが、この時初めて出会った壮大な景色と久しぶりに感じた爽快感は山登りの素晴らしさにどっぷりつかると十分に体験となった。

それから毎年お盆休暇を利用しての家族登山が恒例となり、九州のくじゅうや霧島連山、日本アルプスの槍ヶ岳、穂高岳、常念岳、そして富士山へと徐々にステップアップ中である。そして山登りを始めて5年目の2018年、満を持してあの『木曾駒ヶ岳』に再挑戦することを決めた。まず麓にあるしらび平駅からロープウェイで1000mの標高差を7分半で一気に登り、日本一の高所駅である千畳敷駅(2612m)に到着。駅舎ホームから一步外へ踏み出せば目の前に「千畳敷カール」と呼ばれる氷河で削られた広大な地形が現れる。真っ青に突き抜ける空の下、白い岩肌と緑のコントラストが美しい山々に囲まれ、ここは日本かと思ふ景色(まるでアルプスの少女ハイジの世界)だ。妻が指さす方向に目をやると、富士山がちょこんと顔を出してお互い自然と笑顔になる。ストレッチを済ませ、水分補給をしていよいよ登山開始。階段状に整備された岩場をリズム良くジグザグに登っていく。高ぶる気持ちを抑えながら一歩ずつ確実に進む。しばらく登ったところでふと振り返

ると、先程までいた駅舎がマッチ箱のように小さく見えて標高が上がってきたことを実感する。そこからギアを上げてさらに登り続ける。山頂までの道のりは、まず手前にある中



岳頂上(2925m)まで登り切った後一度下り、再び登り返さなければならぬため精神的につらい。登頂後の弁当やおやつを心の支えに励まし合いながら歩みを続け、出発から2時間半かけてようやく木曾駒ヶ岳山頂(2956m)に到着。山頂はどっしりと広く、360度展望が開けており、本当に気持ちの良い場所だった。ピースサインで写真に納まった後、ザックを下ろしお待ちかねの昼ご飯。準備してきたおにぎりを頬張ると、少し濃いめの塩加減が最高に美味かった。しばし眼前に広がる雄大な景色を見ながら、達成感と安堵感に浸る贅沢な時間を過ごした。こうして5年越しのリベンジは無事果たせたのだった。

昨年はコロナ禍で恒例の家族登山は自粛していたが、現在は山登りを再開できる日を心待ちにしながら最近サボっている基礎体力作りに励んでいる。あわせて夜な夜な地図を眺めながら次に挑戦する山を考えることもまた楽しみの一つである。

山登りを始めたい方には『木曾駒ヶ岳』が最初にお勧めできるピッタリの山だと思う。あの絶景を見たら、誰もが山登りの虜になること間違いなし。

次号は、高校のクラスメイトで親友の山口県産業戦略部 吾郷英昭先生(県庁支部)にバトンタッチします。どうぞよろしくお願ひします。

お知らせ

# 令和2年度日本獣医師会獣医学術賞を受賞

県獣医師会事務局

公益社団法人日本獣医師会会長から令和3年2月5日付け2日獣発第254号で、「令和2年度における日本獣医師会獣医学術賞（「獣医学術奨励賞」及び「獣医学術功労賞」）について、獣医学術功績者選考委員会において選考審査を行った結果」の通知がありました。今回、県獣医師会会員が次のとおり受賞されましたのでお知らせします。

【産業動物部門・獣医学術功労賞】田浦保穂山口大学名誉教授

産業動物臨床における画像診断技術の普及活用に関する実証的研究

【小動物部門・獣医学術奨励賞】小川祐生先生（アミカベットクリニック）、他

犬の歯科 X線検査における二等分面法の新たな入射角度決定法

お二人にあっては、本来であれば、令和2年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会において受賞発表と表彰されるのですが、同大会が中止になったことから、令和3年度の大会の場での表彰となります。

お二人の受賞を皆さんと共に祝いしたいと思います。

お願い

## 会員異動報告の提出について

異動・住所変更記載事項等に変更のあった方は、早急に会員通知票により所属支部事務局あてに、お忘れなく提出されますようお願いいたします。

支部の変更は無いものの住所変更があった場合、「日本獣医師会雑誌」を始め本会からの案内・連絡便等については、1年間は郵便局の方が新住居に転送しますが、その後は、（公社）日本獣医師会や本会に返送されますので、必ず会員通知票を提出されますようお願いいたします。

(様式第3号) (支部長経由)

**会員異動等通知書**

公益社団法人 山口県獣医師会 様

令和 年 月 日

山口県獣医師会 支部

**1 基本情報**

フリガナ (姓)	(名)	性別
漢字		1 男 2 女
住所	電話 FAX メール	
生年月日 1 大正 2 昭和 3 平成	年(西暦) 月 日	卒業獣医 学校名

**2 異動情報 (※変更のみご記入ください)**

① 自宅

住所	電話番号 FAX	メールアドレス (希望者のみ)
----	-------------	-----------------

② 勤務先

名称及び所属	住所	電話番号 FAX	メールアドレス (希望者のみ)
--------	----	-------------	-----------------

③ 新氏名

フリガナ (姓)	(名)
漢字	

備考 (その他)

**打ってないの!!**  
**狂犬病予防注射**

狂犬病は、犬だけでなく、人にも感染する病気で、発症した場合、ほぼ100パーセント死亡します。この病気は、日本、英国、オーストラリアなどの一部の国を除き、全世界で発生しています。

狂犬病の予防注射は毎年受けていますか (毎年1回)

犬の登録はお済みですか (生涯1回)

**犬鑑札**  
山口県 市町

**狂犬病予防注射済**  
2021年度  
山口県 市町

**狂犬病予防の注射は飼い主の義務です**

犬の飼い主は、以下の義務を守りましょう。

(1) 飼い犬の登録  
生後91日以上の飼い犬は、お住まいの市町で登録手続きが必要です。登録は生涯1回が基本です。引越など場合は市区町村への届出が必要となります。

(2) 年1回の狂犬病予防注射  
予防注射をすることで、犬を狂犬病から守ることにより、人への感染が防止できます。 ※迷子になったときのためにあらかじめ、登録鑑札、注射済票の裏面に追加、マイクロチップの埋込みをお願いします。

(3) 鑑札と注射済票の装着  
登録鑑札、狂犬病予防注射済票は、犬に装着してあきらめなければなりません。

**4・5・6月は狂犬病予防注射月間**

※4月から各市町が、会場を設けて登録と予防注射を同時に行います。詳しくは市町広報紙をご覧ください。市町窓口であててください。

(公社) 山口県獣医師会 (公社) 山口県動物保護管理協会 市町 山口県

### 事務局だより

- 2月4日 ・ 令和2年度第2回支部長会議 (書面開催) 山口市 (県獣会館)
- 2月24日 ・ 会報編集委員会 山口市 (県獣会館)
- 2月26日 ・ SFTS検査に係る協議 山口市 (山口大学)
- 2月4日、18日 事業推進会議

**次回編集委員会 3月23日(火) 13:30~**

山口県獣医師会会報 第718号 令和3年3月10日 (毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田 晋平

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷